

スポーツ心理学

| | |
|-----------|-------------------------|
| 履修年度 | 2024 |
| 担当教員 | 田中 博史 |
| 連番 | |
| 曜日・時限・開講期 | 月曜日 3時限 後期 |
| 期間 | 後期 |
| 授業形態 | 講義 |
| 分野系列 | <選択科目(専門)> |
| 学年 | 2年生 |
| 単位 | 2 |
| 開講キャンパス | 東松山 |
| 科目ナンバリング | 182SPSC0621 J |
| 科目とDPの関連 | DP1-1★3/DP2-1★2/DP3-1★2 |
| 備考 | |
| 最終更新日 | 2023/12/15 9:17 |

| | | |
|--------------------------------|---|-------------|
| 授業の概要 | <p>スポーツ心理学は、スポーツに関する人間の心理的現象を扱う心理学の一領域として位置づけられ、「スポーツスキルの制御と学習」「パーソナリティ」などの心理学的基礎から「競技者・指導者の心理」「メンタルトレーニング」などの競技力向上を目的とした内容が含まれる。</p> <p>本講義では、スポーツに関する心理学的諸事について広範囲に学習し、スポーツにおける「こころ」の重要性を理解し、それを「からだ」の諸現象と関連させることによって、様々なスポーツ場面で良好な活動を推進するための心理学的アプローチについて探求する。</p> | |
| 授業の到達目標 | <p>(1) スポーツにおけるスキルの学習、発育発達、パーソナリティについて説明できる。</p> <p>(2) スポーツ実施者の心理面について評価することができる。</p> <p>(3) スポーツにおける諸活動に影響を及ぼす心理的諸原則について説明できる。</p> | |
| DP一覧表 | | |
| 授業の方式 | 対面方式 | |
| 授業の方法① | <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う ・各回で使用する資料はmanabaを通じて配布する | |
| 授業の方法② | 特徴 | 該当有無 |
| | A：企業や自治体と連携した課題解決型学習（PBL） | |
| | B：討議（ディスカッション、ディベート等） | |
| | C：グループワーク | |
| | D：プレゼンテーション | |
| | E：実習、フィールドワーク | |
| | F：双方向授業（ICT活用あり：クlickー、DBmanaba等） | |
| | G：双方向授業（ICT活用なし：対話型、リアクションペーパー等） | |
| | H：授業前に課題等で事前学習し、授業では復習や応用を行う（反転授業） | |
| | I：外国語のみで行われる授業 | |
| | J：インターネットを通じて無償で入手可能な授業教材等を利用した授業 | |
| | K：統一試験結果に基づくクラス編成による授業 | |
| L：少人数クラス編成による授業 | | |
| M：国内の特定の地域に対する理解を深めることを目的とした授業 | | |

| | 授業内容 | 担当教員 |
|-----|-------------------------------------|--------------|
| 第1回 | ガイダンス | 田中博史 |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | スポーツ心理学に関する書籍を読むこと | 4時間 |
| 第2回 | 授業内容 | 担当教員 |
| | スポーツと心 | 田中博史 |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| 第3回 | 授業内容 | 担当教員 |
| | スポーツスキルの制御と学習 | 田中博史 |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| | 授業内容 | 担当教員 |

| | | | |
|----------|---|-------------------------------------|-------|
| 授業 計画 | 第4回 | スポーツスキルの効果的な学習法 | 田中博史 |
| | | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| | 第5回 | 授業内容 | 担当教員 |
| | | スポーツと発育発達 | 田中博史 |
| | | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | 第6回 | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| | | 授業内容 | 担当教員 |
| | | スポーツと社会心理 | 田中博史 |
| | 第7回 | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| | | 授業内容 | 担当教員 |
| | 第8回 | スポーツとパーソナリティー | 田中博史 |
| | | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 |
| | | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 |
| 第9回 | 授業内容 | 担当教員 | |
| | パーソナリティー評価の実際 | 田中博史 | |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| 第10回 | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 | |
| | 授業内容 | 担当教員 | |
| | コーチングの心理 | 田中博史 | |
| 第11回 | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 | |
| | 授業内容 | 担当教員 | |
| 第12回 | スポーツとモチベーション | 田中博史 | |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 | |
| 第13回 | 授業内容 | 担当教員 | |
| | スポーツメンタルトレーニングの概要 | 田中博史 | |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| 第14回 | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 | |
| | 授業内容 | 担当教員 | |
| | 健康スポーツにおけるスポーツ心理学 | 田中博史 | |
| 第15回 | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| | 講義内容を読み返し理解を深めるとともに、次回の資料に目を通しておくこと | 4時間 | |
| | 授業内容 | 担当教員 | |
| 第15回 | 授業内容に関するまとめと評価 | 田中博史 | |
| | 準備学修（予習・復習等） | 必要な時間 | |
| | 授業全体の内容が自身の今後のスポーツ活動にどのように活かされるのかについてまとめること | 4時間 | |

| | | | |
|------------|--|-------|--|
| フィードバックの方法 | レポートについてのフィードバックは個々の学生に対しては行いませんが、良いレポートに関しては学生名を出さずに評価を全体にお伝えすることはあります。 | | |
| 教科書 | 毎時間レジユメを配布する。 | | |
| 参考文献など | 新聞、インターネットなどのニュース | | |
| 成績評価の方 | 評価方法 | 割合(%) | 評価基準 |
| | 筆記試験 | 80 | 論文形式の問題では、コピーでもダメですし、授業でやった内容をそのまま筆写するだけでもダメです。授業の内容を理解した上で、自分自身が考えた内容についてきちんと記述することが必要です。 |

| | | | |
|------------|--------|--|--|
| 法・基準 | 実技評価 | 0 | なし |
| | レポート評価 | 20 | 視聴覚教材を見ていただき、技術面などから出題の意図を汲んだ内容である必要があります。 |
| | 平常点評価 | 0 | なし |
| | その他 | 0 | なし |
| 履修上の注意 | | 特になし | |
| 連絡先・連絡方法など | | 授業終了後声をかけていただくか、メールなどにてご連絡ください。(tmura@ic.daito.ac.jp) | |
| 実務経験① | | あり | |
| 実務経験② | | なお、担当者は実務経験者として、コンピュータプログラミング、ハードウェア保守、情報ネットワーク構築、統計調査、経済分析に従事したことがあり、その経験を生かした授業を行っていく。 | |
| その他 | | 試験後のレポート提出は一切認めません。追試を受験する資格がある学生は、追試を受験してください。 | |